

断した。

同年 11 月に当院外科にて腹腔鏡補助下脾臓摘出術を施行。術後、白血球数および血小板数は増加し、2014 年 2 月の CT にて胃静脈瘤は消失していた。

35 高齢者慢性腎不全合併肝性脳症に対し、Percutaneous Transhepatic Obliteration (PTO) を施行した 1 例

渡邊 雄介・石川 達・阿部 聡司
井上 良介・菅野 智之・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科

36 当科における肝硬変症例の門脈血栓の現状と治療

菅野 智之・石川 達・阿部 聡司
井上 良介・渡邊 雄介・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科

37 Foam Percutaneous Transhepatic Obliteration (PTO) を施行した胃静脈瘤の 1 例

森 望美・阿部 聡司・石川 達
井上 良介・菅野 智之・渡邊 雄介
岩永 明人・関 慶一・本間 照
吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科

38 当院における肝性浮腫に対するトルバプタン (サムスカ) 錠の使用経験

坂牧 僚・津端 俊介・有賀 論生
山川 雅史・平野 正明

県立中央病院消化器内科

Vasopressin V2 受容体拮抗薬であるトルバプタンは電解質の排泄に直接影響しない水利尿薬であり、今回その治療効果および副作用について検討したので報告する。

症例の総数は 7 例で、平均年齢は 69.3 歳、男性 3 例、女性 4 例、背景肝は B 型肝炎が 1 例、C 型肝炎が 4 例、NASH が 2 例であった。肝機能としては Child-Pugh 分類で平均 10.4 点であった。

トルバプタンの 7 日間の投与で平均約 2kg の体重減少が見られたが、ナトリウム値およびクレアチニン値には変化を認めなかった。

中止例は 3 例あったが、トルバプタンの副作用によるものはなかった。長期投与では、次第に体重が増加してくることが確認された。

トルバプタンは重篤な副作用は認めず、比較的安全に使用することが可能と考えられた。しかし次第に利尿効果が次第に低下してくるものと考えられ、より高容量での使用が認可されることが期待される。

39 筋症状に対するレボカルニチン塩化物の使用経験

津端 俊介・坂牧 僚・有賀 論生
山川 雅史・平野 正明

県立中央病院消化器内科

肝硬変のこむら返りに苦しむ患者に対して、レボカルニチン塩化物 (LC) を使用した。全例 600-900mg を用いたが、全例においてこむら返りの自覚頻度は低下した。1 例において 600mg では十分な改善を得られなかったが、900mg に増量することで症状の改善を得ることができた。用量依存性である可能性があると思われるが、その至適量の設定には様々な報告がある。また LC は、内服コ